

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1270401126
法人名	株式会社 マウントバード
事業所名	グループホームわかばの家
所在地	〒264-0035 千葉県千葉市若葉区東寺山町399-1 (電話) 043-290-8177

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成20年11月21日
評価確定日	平成21年1月9日

【情報提供票より】(20年11月7日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤9人, 非常勤9人, 常勤換算8.2人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他	食費45,000円, 水道光熱費20,000円, 理美容1,500円, TV持込500円, 送迎30分500円, 生活用品費実費	
保証金の有無(入居一時金含む)	300,000円	有りの場合償却の有無	有り(3年償却)居室の修繕や未払い等の債務清算後返還	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	600 円	おやつ	200 円
	1日当たり		1,500 円	

### (4) 利用者の概要(11月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	68 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	増田病院 ゆうクリニック 都賀デンタルクリニック 高根町整形外科
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは街中にあり、車ででの来訪がしやすい環境にあるが、ひとたびホームの中に入るとまるで別荘地にいるかのような、木を生かした温もりのある造りになっている。窓からは緑の木々が眺められ、穏やかな落ち着いた雰囲気である。一階フロアは室内からウッドデッキに繋がっており、さらにそこから畑や芝生に出られるので、広々とした空間を造り上げている。内部の共有部分には畳敷きの場所やソファが置かれ、思い思いのスタイルで過ごす事ができるようになっている。入居者の表情は穏やかで、しばしば笑い声が聞こえていた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題の一つに災害対策があったが、今年度は防災管理者を設置したり、消防署による実地指導を受けるなど改善の様子が伺える。また、家族からの要望があればすぐに対応しており、ホームを職員全員でより良くしようとする努力がみられる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が参加して定期的に行われるフロア会議で自己評価に関する意見を出し合い、それをリーダー会議で集約し、作成した自己評価票を職員に周知した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。地域包括支援センター、入居者家族らが参加し、ホームの紹介・推進会議の意義と目的・家族や地域との連携などについて話し合っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱の設置のほか、家族の面会時や運営推進会議の中で意見が出ており、それに対してすぐ対応できる体制を作っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元自治会への入会が叶わず、地域連携が大きな課題となっている。しかし隣の地区の町内会の行事や、入居者家族が住んでいる地域の行事に参加するなど、できる部分から広げていくように取り組みを行っている。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念が5つとホーム独自の理念が3つあり、職員や来訪した家族の目につく様に玄関に掲げてある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は朝礼で理念を復唱し、日々の介護に反映できるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会に入会することが未だ実現できていない。しかし近隣地区の行事や入居者家族の地域行事等に積極的に参加し、地域交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の課題項目は、月一回のフロア会議において職員全員で話し合い、改善に向けて努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員や民生委員、町会長、地域住民等に声をかけ2ヶ月に一回開催している。その場での意見交換や地域の意見も聞き交流を図っている。		

. 理念に基づく運営				
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村主催の研修へ参加したり、窓口に直接問い合わせに行ったり、市町村との連携を図りサービスの質の向上に努めている。	
4. 理念を実践するための体制				
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月わかば便りを家族に送り、日常の様子や健康面等を知らせている。金銭については家族の面会時に小遣い帳を確認してサインをもらっている。入居者に変化のあった時は随時電話を入れる等して詳しく報告している。	毎月わかば便りを送っているが、毎月の献立表を知らせたり、来訪できない家族には小遣い帳のコピーを合わせて送るなど、家族等への報告については工夫を期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情処理担当を設けて対応するだけでなく、運営推進会議で家族の意見を聞いたり、年一回の家族会の開催時には家族同士が意見交換できるようにし、それをホーム側が聞き対応できる機会を設けている。	
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動のダメージを最小限にするよう、入居者に伝えるタイミングや伝え方等、状況に応じての配慮がなされている。	
5. 人材の育成と支援				
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は積極的な研修に取り組むよう配慮し、外部で受講した研修は必ずフロアー会議において他の職員に伝達し、スタッフ全体での質の向上に努めている。	
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の施設同士の研修、講習会等で情報交換を行ったり、千葉市のグループホーム連絡会には職員が順番で参加し、交流を深めている。	

<p><b>.理念に基づく運営</b></p> <p><b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居する際にホームを十分見学したり、入居者と一緒にお茶を飲む機会を作ったりしながら、徐々に馴染める環境作りを行っている。入居後もホームに慣れるまで職員が配慮している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>				
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員も入居者と一緒にお茶を飲んだり、食事作りを行いながら味付けや作り方を教わったり、共に関わり支えあえる環境作りをしている。</p>	
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりの希望や訴えに熱心に耳を傾け、困難な場合は家族から聞き取りを行うなどして、思いや意向の把握に努めている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ホーム入居後もその人らしく暮らすために何が必要か、本人、家族、医療関係者等からの情報を元に、月一度職員全員でミーティングを開き、検討している。</p>	
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者一人ひとりの状況を常に把握し、変化の見られる場合は、その都度本人、家族、関係者で話し合い、見直しを行っている。</p>	

・理念に基づく運営

3. 多機能性を活かした柔軟な支援

17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	孫の結婚式の送迎や手芸店への買い物同行等、出来る限りの支援を行っている。医療連携体制を整える事により、受診時の負担の軽減を図っている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や希望の医療機関の受診を支援している。又、協力医療機関から隔週で訪問診療や訪問看護を受け入れ、入居者の健康に留意している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	[医療処置の必要なぎりぎりの段階まで]対応するとの方針は共有しているが、入居者や家族の希望を出来る限り尊重するよう努めている。		

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録等は、所定の場所に保管し、取り扱いに注意している。又、生活の色々な場面で、一人ひとりの誇りやプライバシーを守る事への配慮がある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活時間は決まっているが、入居者のその日の気分や体調に合わせ、柔軟に対応している。又、その日の過ごし方について希望を聞くようにしている。		

・理念に基づく運営

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。部屋に籠りがちであった男性入居者の為、「男の料理の日」を設けて少しずつ調理に参加してもらい、ホームの生活に馴染んでもらった例もある。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>日中の時間帯であれば毎日入浴が可能で、自由な時間に入浴を楽しむことができる。</p>		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事作りや庭掃除等、入居者と職員が協力し、楽しみながら行っている。又、年に一度の泊旅行や、イチゴ狩り、ぶどう狩り等、遠出の外出を入居者の希望を取り入れ実施している。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>近隣の畑の道は季節感があり、日常的な散歩道となっており、希望に応じて出かけている。又テラスに続くホームの庭は菜園があったり、芝生があったり、戸外で自由にくつろぐ空間となっている。</p>		

(4) 安心と安全を支える支援

26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>安全の為、夜間は玄関に施錠しているが、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>8月に避難訓練を実施した。又、消防署の実地指導を受けたり、防災管理者の設置なども行った。飲料水等の備蓄に関しては、早急に準備する。</p>		

<p><b>理念に基づく運営</b></p> <p>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</p>				
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事記録により、一人ひとりの栄養摂取状態を把握している。ポット等を用いて、自由に水分を補給できるようにしている。食材は食材会社に委託し、栄養士の指導によって準備されたものを、ホームで調理している。</p>	
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間は広々と明るく、木のぬくもりと柔らかさに包まれ、特に食堂の椅子は大変座り心地良く出来ている。又、畳敷きの場所やソファも用意され交流の場となっている。</p>	
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>クローゼットのある居室はそれぞれなじみの調度品が置かれ、入居者が居心地良く過ごせるよう配慮されている。又、どの居室の窓からも緑の木々が眺められ、落ち着いた気分になれる。</p>	